

全国文学館協議会共同展示「3.11文学館からのメッセージ」

## 大地と海がゆれるとき —福井ゆかりの作家が描いた地震—

福井ゆかりの作家による、東日本大震災(2011年)、福井地震(1948年)などの地震について描いた文学作品を紹介します。

期間:2月18日(金)～4月10日(水)

項番	作家	種別	資料名	発行年	発行者
1	中野重治	書籍	『おばあさんの村』	1957	岩波書店
2	中野鈴子	書籍	『中野鈴子全詩集』	1980	フェニックス出版
3	岡部文夫	書籍	『運河』	1949	新協出版社
4	岡部文夫	自筆資料	「雪の夜のふかぶかとしてしづけきにふたたびの地震ゆりつつすぎる」(展示:2月18日～3月23日)	—	—
5	岡部文夫	自筆資料	「震源はいつくならむか雪の夜の明かきに地震の揺りてすぎたる」(展示:3月25日～4月10日)	—	—
6	多田裕計	書籍	『小説芭蕉』	1964	学習研究社
7	伊藤柏翠	書籍	『虚子先生の思い出』	1995	天満書房
8	吉村昭	書籍	『三陸海岸大津波』	2004	文藝春秋
9	津村節子	書籍	『星祭りの町』	1996	新潮社
10	津村節子	書籍	『三陸の海』	2013	講談社
11	有明夏夫	書籍	『俺たちの行進曲』	1981	文藝春秋
12	有明夏夫	自筆資料	『俺たちの行進曲』執筆資料 (3月25日に内容を変更します)	—	—
13	俵万智	書籍	『チョコレート革命』	1997	河出書房新社
14	俵万智:短歌 山中桃子:絵	書籍	『あれから 俵万智3.11短歌集』	2012	今人舎
15	宮下奈都	書籍	『はじめからその話をすればよかった』	2013	実業之日本社
16	宮下奈都	書籍	『ふたつのしるし』	2014	幻冬舎

